ナミビアにおけるドイツの忘れられた大量虐殺

＝バイ　アデキー　アデバホ（ヨハネスブルグ大学教授）

世界の指導者が毎年恒例の国連総会にニューヨークに集まる中、2001 年のダーバン人種差別会議 20 周年を記念した「アフリカ系人のための賠償、人種的正義、平等」に関する 9 月 22 日の討論が特に注目される。ダーバン会議では、賠償の問題は、かつて奴隷商人や奴隷所有者だった帝国主義列強の西洋諸国（の抵抗）で、議論されることは許されなかったが、今ではしっかりと議題に上っている。

これに関連した最近の最も重要な動きは、1904 年から 1908 年の間に当時の南西アフリカ(ナミビア)植民地でおきた大量虐殺に対する賠償金 11 億ユーロをドイツ政府が支払うことになった合意である。

ジェノサイドの歴史

ドイツの「鉄血宰相」ビスマルクは、1884 年に南西アフリカの保護領化を宣言した。その 10 年後、冷酷な軍司令官カート・フォン・フランソワは、先住民にいわれのない虐殺をおこなった。1904 年 1 月、ドイツ市民に土地と牛を奪われたことに反発したヘレロ人たちは、サミュエル・マハレロといったゲリラに率いられて蜂起し、100 人の白人入植者を殺害した。

9 か月後、変質者的な傾向をもったドイツ軍のロタール・フォン・トロタ司令官―彼は「人間のサメ」として知られる―は、ヘレロ人たちが大胆にも土地と牛の処分に反対して反乱を起こしたとして、「殲滅命令」を出した。トロタ指令官は残忍極まりなかった。「ドイツ領内で見つかったヘレロ人はだれであろうと、銃や牛をもっていようがいまいが、処刑する。女性や子供も容赦しない」といっていた。

ヘレロ人たちは勇敢に抵抗したが、ドイツ軍の機関銃、大砲、銃剣に圧倒された。1904 年 8 月にウォーターバーグで敗北し、むち打ち、大量処刑、絞首刑に処せられた。カラハリ砂漠に押し込められ、多くの人が飢えと渇きで死んだ。

生存者は肉牛運搬用のトラックでスワコプムント、リューデリッツ、ウィントフックの強制収容所に運ばれ、多くの人が殴打、強姦され、数千人が奴隷労働

で死亡した。結核、チフス、天然痘に計画的に感染させられた人たちもいた。優生政策が始まり、受刑者たちは親族の肉を削らされ、頭蓋骨を煮沸させられた。そのうち約 3,000 体の頭蓋骨が疑似科学実験用にドイツに送られた。

ヘンドリック・ウィトブーイが率いたナマ蜂起も同様に無慈悲に鎮圧され、反乱軍はシャーク島の冷たい死の収容所に閉じ込められた。1908 年までに、推定 90,000 人(ヘレロ人全体の 80%、ナマ人の 50%)が虐殺された。20 世紀初のジェノサイドだった。無名のヘレロ人たちの集団墓地が、スワコプムントと首都ウィントフックの鉄道構内にたくさん残っている。多くのドイツ人や他の歴史家は、ナミビアの大量虐殺は 20 年後のユダヤ人ホロコーストの悲惨な予行演習だったと考えている。

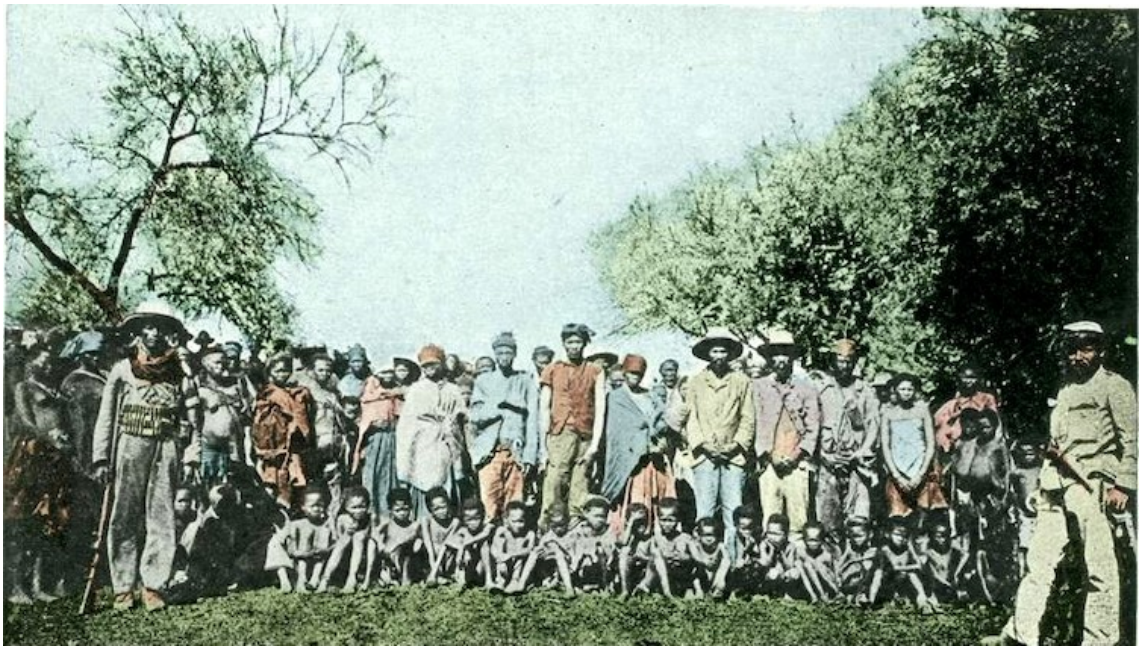

写真:1900 年頃のヘレロ捕虜。CC BY-SA

思い出と和解

ナミビアにはドイツ兵の記念碑が数多くあるのに、ヘレロ人とナマ人犠牲者の記念碑はほとんどない。虐殺の開始から 100 周年にあたって、ドイツの左派系学者や政治家に押されて、ドイツ政府は、これらの犯罪についてヘレロ人に謝罪を表明した。

2011 年になってようやく、ドイツの博物館は犠牲者の頭蓋骨のナミビアへの返還を始めた。正式の埋葬のためだ。ドイツ政府は 108 年間も否定と言い逃れ

を続けた後、2015 年 7 月に、シュタインマイヤー外相が、ナミビアの事件が「戦争犯罪と大量虐殺」にあたることを最終的に認めた。ベルリンの博物館は、アフリカにおけるドイツの植民地主義の歴史に関する展覧会を始めた。

賠償貸借対照表

2015 年から、ドイツとナミビア両政府は、1 世紀前のドイツによる大量虐殺を贖うための交渉を行い、6 年かけて共同合意に達した。ことし 5 月、ドイツは、今後 30 年にわたりナミビアの「復興と開発」援助に 1 1 億ユーロを支払うことで合意した。土地改革、農村インフラ、医療、エネルギー、教育、水、職業訓練など重要な分野への支援で、「被害者に与えた莫大な苦しみを認識する証し」として支払うとされた。

しかし（合意では）、かつての犯罪は「今日の視点から」みたジェノサイドと表現された。これは、ヨーロッパ諸国が作った国際法はアフリカの犠牲者には適用されないことを示唆したものだ。支払われる金の多くは、主にヘレロ人とナマ人の子孫に恩恵をもたらすことになるが、ドイツのマース外相は、ポーランドやギリシャ、イタリアからナチス犯罪に対する同様の請求がおこるのを恐れ、（ナミビアとの）合意はいかなる「法的な賠償請求」への扉を開くものではない、と素早く付け加えた。

ドイツ政府は、共同宣言に「賠償」という言葉を含めることを拒否した。ナミビア当局者は支払いについて「正しい方向への第一歩」とのべたが、ナミビア政府は、最大の援助国との不平等な交渉でうまくあしらわれてしまったと広く見られている。

この歴史的合意を実施する際の主な課題は、ヘレロ人とナマ人の指導者に合意の受け入れをどう説得するかだ。指導者の何人かは、自分たちのほとんどが交渉に参加していなかったと不満をのべ、取引に対して声高な敵意を表明している。なかには、真の賠償行為ではなく「広報クーデター」として拒否している人たちもいる。

「オヴァヘレロ正統本部」の指導者、ヴェクイイ・ルコロ氏と、「ナマ伝統指導者協会」のガオブ・アイザック会長は、両政府の合意を「人種差別的な考えの構造物」と非難し、「全面的な裏切り」と述べている。先住民グループの不信感の背景には、彼らがナミビア社会でずっと疎外され続けてきたことや、ナミビア政府の腐敗したエリートにたいする批判がある。

植民地賠償の未来

ドイツ近代史に影を落としているのは、多くの場合、600 万人の欧州ユダヤ人に死をもたらした第三帝国の犯罪の残忍さだ。ドイツ政府はその後、正義を回復する目覚ましいプロセスを制度化し、イスラエルとユダヤ人グループに 980 億ドルの賠償金を支払った。戦後のドイツは模範的な地球市民になろうとして、2015 年と 2016 年の間にシリア、イラク、アフガニスタンから 100 万人の難民を受け入れた。この人たちはいまや人口の 17%をしめている。しかし、ナミビアでの植民地主義の虐殺が広く知られるようなったのはごく最近であり、このアフリカ人虐殺を記念する記念碑は、ベルリンとブレーメンの 2 つしかない。

フランス、イギリス、ベルギー、ポルトガル、スペインのような旧ヨーロッパ植民地勢力は、アフリカで犯した残虐行為の清算をまだおこなっていない。100 万人のアルジェリア人が 1954-1962 年の野蛮なアルジェリア戦争で死亡した。1947-1949 年のマダガスカル蜂起で 9 万人のマダガスが殺された。セシル・ローズのイギリス南アフリカ企業は、1890 年代の反乱の間に何千人ものデベレ人とソナ人を虐殺し、（抵抗した）反逆者を何千人も殺害した。イギリス軍は約 25,000 人のケニア人を殺害し、1950 年代のマウ・マウ解放闘争中に拷問に満ちた強制収容所で裁判なしで 10 万人を拘束した。

ベルギーは、レオポルド国王の残忍な殺人と騒乱の治世の下で、コンゴの人口 2000 万人の半数が死亡させた罪に問われている。これらヨーロッパ列強は、植民地犯罪へ全面的な謝罪をしたドイツの先例に従い、いまも続いている被害を救済する償いをするのだろうか。

アデキー・アデバホ＝ヨハネスブルグ大学汎アフリカ思想会話研究所の南アフリカ研究センター所長

（国際報道シンンジケート IDN-インデプスニュース- 2021 年 9 月 17 日から。記事は、2021 年 9 月 15 日にナイジェリアのガーディアン紙に掲載された）

【翻訳　田中靖宏】